



EDB Postgres Migration Portal

リリース **2.2.0**

User's Guide

2019 年 09 月 19 日

目次

第 1 章	新機能	2
第 2 章	サポートされているバージョン	6
第 3 章	EDB 移行ポータルの使用	7
3.1	移行ポータルのホームページの概要	9
3.2	移行ポータルプロジェクトページの概要	10
3.3	移行ポータル Wiki ページの概要	12
第 4 章	データベースの移行	13
4.1	スキーマ抽出の実行	14
4.1.1	サポートされているオブジェクトタイプ	17
4.2	スキーマ評価の実行	18
4.2.1	評価レポートの生成	23
4.3	スキーマの移行	25
4.3.1	スキーマの CDS クラスターへの移行	26
4.4	データ移行	29
第 5 章	高度なデータ移行	30
第 6 章	おわりに	31
索引		33

EDB Postgres™ 移行ポータル（移行ポータル）は、Oracle データベーススキーマを EDB Postgres プラットフォームに移行するための Web ベースのサービスです。移行ポータルは、Oracle データベーススキーマを評価および分析し、タイプ、テーブル、シーケンス、制約、トリガー、ビュー、ストアドプロシージャ、パッケージ、dblink、マテリアライズドビュー、インデックスを変換し、EDB Postgres Advanced Server と互換性のある DDL を生成します。

使いやすいポータルインターフェイスにより、移行が簡単になります。ポータルにログオンし、移行プロセスを開始します。

EDB Postgres™ 移行ポータルガイドには、移行プロセスに含まれる手順の概要が記載されています。このガイドには、一般的な移行の問題に対する解決策、サポートされていない機能の詳細、および潜在的な回避策も含まれています。

EnterpriseDB は、企業が既存のデータベースシステムを Postgres に長年にわたって移行するのを支援してきました。詳細については、EnterpriseDB Web サイトにアクセスしてください。

<https://www.enterprisedb.com/>

新機能

このリリースの EDB Postgres 移行ポータルには、次の機能が追加されています。

- スキーマの抽出中に依存オブジェクトの抽出を選択できるようになりました。他のスキーマの依存オブジェクトも抽出され、評価結果の改善に役立ちます。
- 新しいユーザーは、Migration Portal の使用を開始するときのエクスペリエンスが改善されます。
- Advanced Server はテーブルとインデックスの同じ名前をサポートしていないため、より良い評価結果のためにプロジェクトを作成する際に、インデックスプレフィックス “idx” を追加することを選択できるようになりました。
- 評価レポートには、選択したスキーマの DDL に適用された個別の修復ハンドラーの数が表示されます。

Repair Handlers Applied

The following table displays the number of times the unique repair handlers applied on schemas.

Code	Short description	Long description	Usage Count
ERH-2013	EDITIONABLE	deleted [EDITIONABLE clause]	700
ERH-2009	ENABLE	deleted [ENABLE]	618
ERH-2005	USING_INDEX_ENABLE	deleted [USING INDEX <CREATE INDEX CLAUSE> ENABLE]	320
ERH-2007	NOORDER_SEQUENCE	deleted [Un-supported sequence option (ORDER or NOORDER)]	153
ERH-2024	NOPARTITION_SEQUENCE	deleted [Un-supported sequence option N OPARTITION)]	153
ERH-2023	NOCYCLE_SEQUENCE	replaced [Un-supported sequence option NOCYCLE] with [NO CYCLE]	153
ERH-2019	SEQUENCE_OUT_OF_RANGE_ERROR	replaced [out of range value] with [+/-922 3372036854775807]	153

図 1 適用される修理ハンドラーの数

- [ワークスペース] ページでシステム修復および手動修復されたオブジェクトをフィルターできるようになりました。

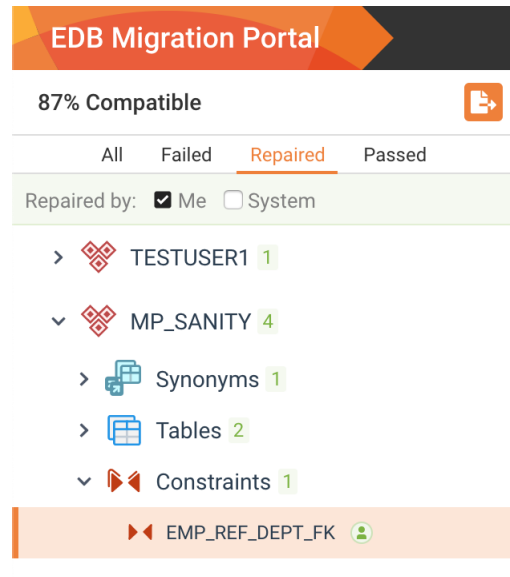


図 2 手動で修復されたオブジェクト

注：

このリリース以降、Migration Portal は最新の EDB DDL Extractor によって抽出された DDL のみを受け入れます。

新しい修復ハンドラ

Advance Server の互換性比を改善するために、次の修復ハンドラーが追加されました。

- ERH 2073-テーブルのソース DDL から CONSTRAINT constraint_name NOT NULL DISABLE 句を削除します。

たとえば、`CREATE TABLE TEST (COL1 VARCHAR2(40) CONSTRAINT TEST_COL1_NN NOT NULL DISABLE);``CREATE TABLE TEST (COL1 VARCHAR2(40));` になります

- ERH 2074-テーブルのソース DDL から NOT NULL DISABLE 句を削除します。

たとえば、`CREATE TABLE TEST(COL1 VARCHAR2(40) NOT NULL DISABLE) ;``CREATE TABLE TEST (COL1 VARCHAR2(40)) ;`

- ERH 2075- `CONSTRAINT constraint_name CHECK|UNIQUE|PRIMARY KEY parameters DISABLE | CONSTRAINT constraint_name CHECK|UNIQUE|PRIMARY KEY parameters DISABLE | CONSTRAINT constraint_name CHECK|UNIQUE|PRIMARY KEY parameters DISABLE` 句をテーブルのソース DDL から削除します。

たとえば、`CREATE TABLE TEST(``DATE_COL1 DATE, CONSTRAINT TEST_DATE_COL1_CHK``CHECK (DATE_COL1 > '01-JAN-2018') DISABLE) ;``CREATE TABLE TEST (``DATE_COL1`

DATE); になります

- ERH 2076-テーブルのソース DDL から CHECK|UNIQUE|PRIMARY KEY parameters DISABLE | CHECK|UNIQUE|PRIMARY KEY parameters DISABLE | CHECK|UNIQUE|PRIMARY KEY parameters DISABLE 句を削除します。

たとえば、 CREATE TABLE TEST (ID VARCHAR2(40), PRIMARY KEY (ID) DISABLE) ;
CREATE TABLE TEST (ID VARCHAR2(40)); になります

ナレッジベース

次の新しいナレッジベースエントリが追加されました。回避策の詳細については、移行ポータルのナレッジベースのセクションを参照してください。

- インデックス定義内の NVL 関数

Advanced Server では、互換性のために、Oracle からの DATE データ型が timestamp without time zone データ型に変換されます。ただし、Advanced Server v10 では、nvl () 関数は引数の timestamp without time zone データ型をサポートしていません。Advanced Server v10 の nvl () 関数の入力引数として、次のデータ型がサポートされています：

character varying

Numeric

Date

timestamp with time zone

インデックス定義内の nvl () 関数の入力値として使用される他のデータ型はエラーを返します。

サポートされているバージョン

Migration Portal は、Oracle 11g および 12c から EDB Advanced Server 10 または 11 への評価と移行をサポートしています。MigrationPortal は、次のブラウザとオペレーティングシステムでサポートされています。

サポートされているブラウザ

最高のユーザーエクスペリエンスを得るには、Google Chrome ブラウザーを使用することをお勧めします。移行ポータルは、次のブラウザーでもサポートされています。

ブラウザ	サポートされているバージョン
Macintosh OS 上の Apple Safari	11 以上
Google Chrome	68 以上
Microsoft Edge	42 以上
Mozilla Firefox	60 以上
Internet Explorer	11 以上

サポートされているオペレーティングシステム

オペレーティングシステム	サポートされているバージョン
マッキントッシュ	OS X シエラ
Windows	10
Linux	CentOS 7

第 3

EDB 移行ポータルの使用

移行ポータルを使用すると、データベーススキーマを Oracle から Advanced Server に簡単に移行できます。評価用のスキーマをアップロードして、すぐにフィードバックと提案を得ることができます。ポータルでは、すべてのオブジェクトの評価済み DDL をダウンロードし、オンプレミスまたはクラウドで EDB Postgres データベースを作成できます。

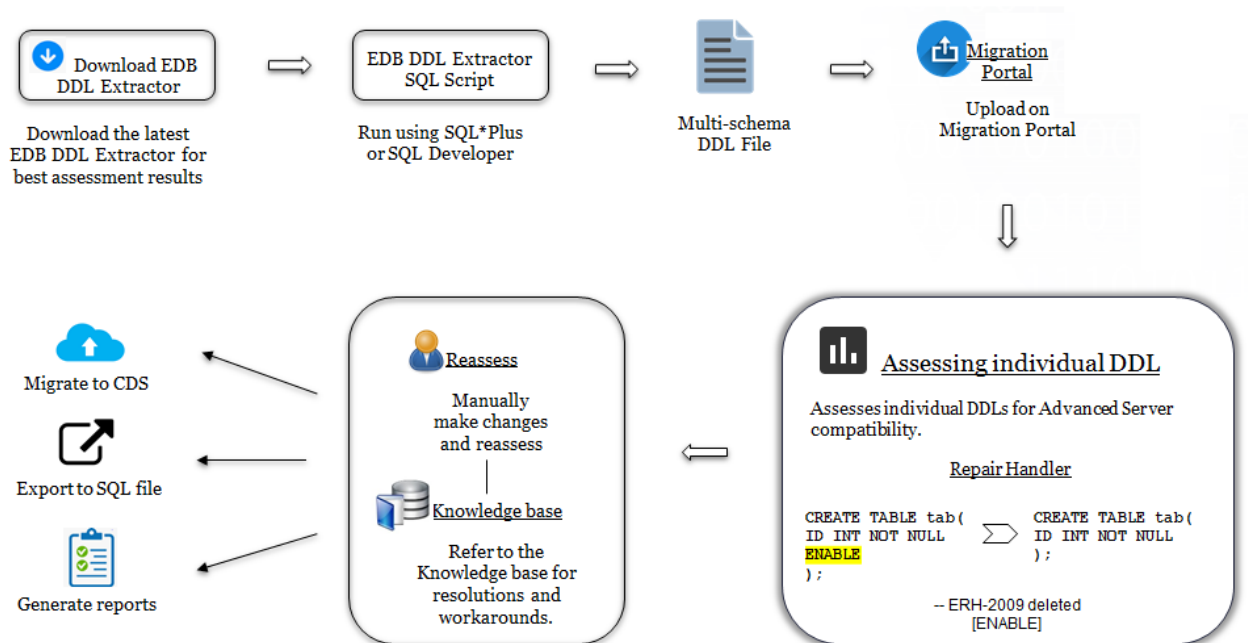


図 1 評価および移行プロセス

移行ポータルにアクセスするには：

1. ブラウザーを開き、<https://www.enterprisedb.com/>に移動します
2. EnterpriseDB ホームページで、Enterprise Postgres > EDB Postgres Migration Portal をクリックします。

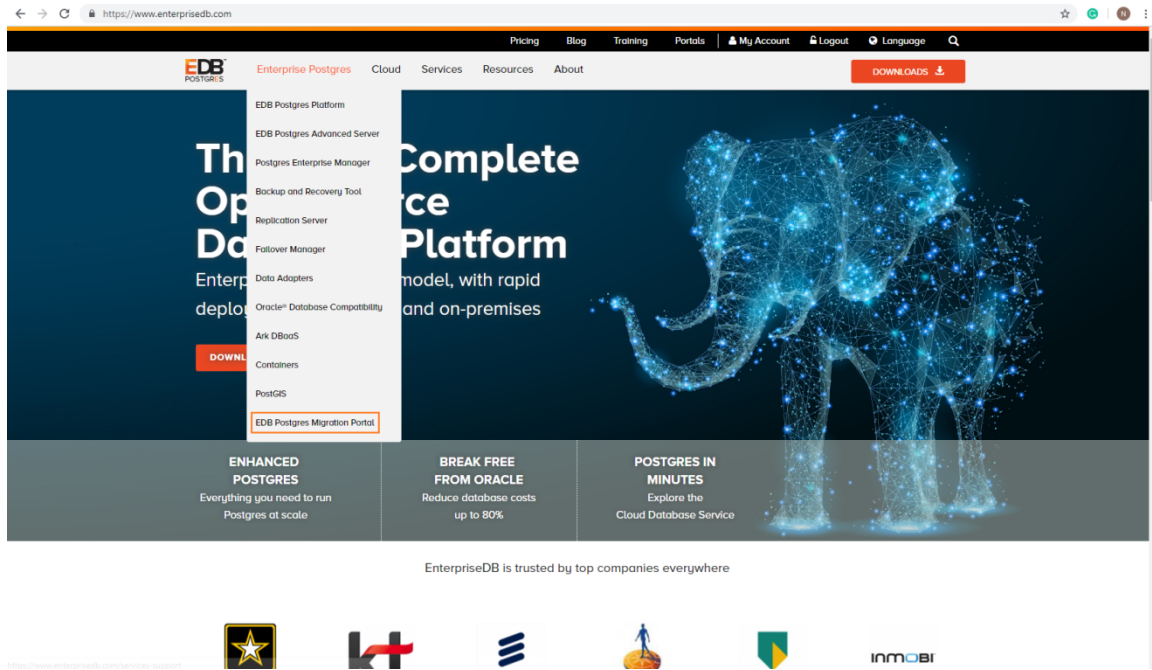


図 2 移行ポータルへのアクセス

3.1 移行ポータルのホームページの概要

移行ポータルのホームページでは、移行ツールにすばやくアクセスできます。

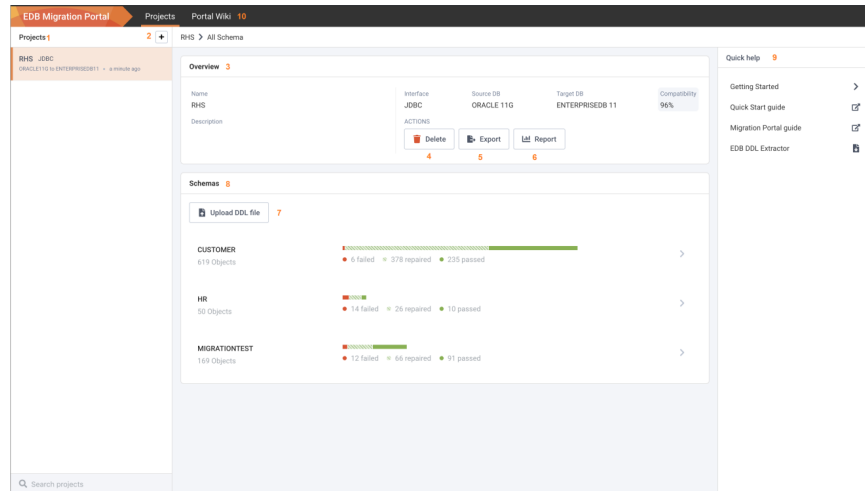


図 3 移行ポータルのホームページ。

このページでは、次の移行ポータル機能にアクセスできます。

1. プロジェクト：Projects パネルには評価されたプロジェクトのリストが表示されます。
2. プロジェクトの作成：Create project アイコン（Projects ラベルの右側にあるプラスアイコン）を使用して、新しいプロジェクトを作成します。
3. 概要：Overview パネルには、選択したプロジェクトの詳細が表示され、スキーマ評価後の互換性のパーセンテージが表示されます。
4. 削除：選択したプロジェクトを削除するには、Delete ボタンを使用します。
5. エクスポート：Advanced Server 互換の Export ファイルをダウンロードするか、スキーマを EDB Cloud Database Services クラスタに移行するには、.sql ボタンを使用します。
6. レポート：スキーマ評価レポートを表示およびダウンロードするには、Report ボタンを使用します。
7. DDL ファイルのアップロード：Upload new schema ボタンを使用して、新規または追加の DDL ファイルをアップロードします。
8. スキーマ：Schemas パネルには、アップロードされた DDL ファイルからの評価結果が表示されます。
9. クイックヘルプ：Quick help パネルにはすべてのヘルプガイドが含まれています。
10. ****Portal Wiki****：Portal Wiki は製品情報とヘルプガイドを表示します。

3.2 移行ポータルプロジェクトページの概要

[移行ポータルプロジェクト] ページには、移行に関する詳細情報が表示されます。

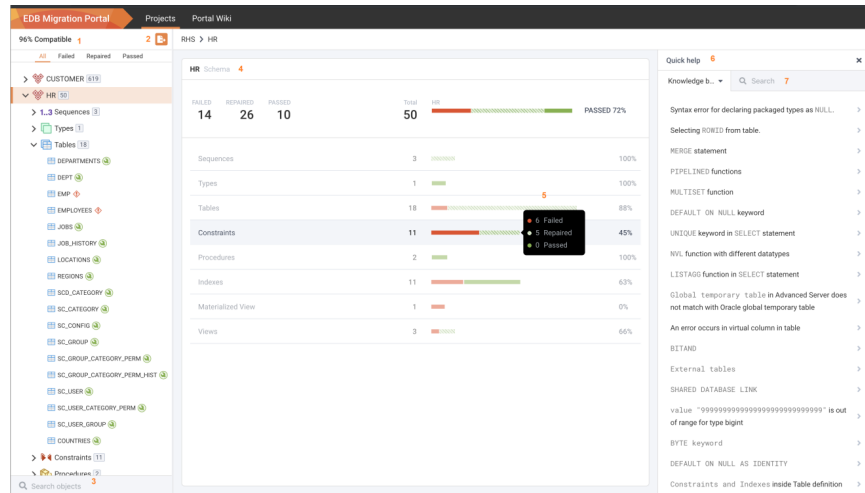


図 4 移行ポータルプロジェクトページの概要

次のリソースを使用して、移行プロジェクトに関する情報を収集します。

1. **互換性**：Compatible パネルはスキーマのリストを表示し、評価された各オブジェクトに関する情報 (passed, failed, or repaired) を提供します。

注：[プロジェクト] ページの左パネルから、修復されたシステムおよび手動で修復されたオブジェクトをフィルタリングすることもできます。

2. **エクスポート**：Export アイコン（Compatible ラベルの右側にあります）を使用して、.sql ファイルをダウンロードするか、スキーマを* EDB クラウドデータベースに移行します Service * クラスタ。
3. **検索**：Search アイコンを使用してプロジェクトを検索します。
4. **スキーマ**：Schema パネルには評価の結果が表示されます。
5. **ツールチップ**：結果セットにカーソルを合わせると、合格、失敗、修復されたオブジェクトの数を含むツールチップが表示されます。
6. **クイックヘルプ**：Quick help パネルには、失敗したオブジェクトの修正に使用できるナレッジベース記事へのリンクが表示されます。
7. **検索**：Search ボックスを使用して、失敗したオブジェクトの修復に関する情報のナレッジベースエントリを検索します。

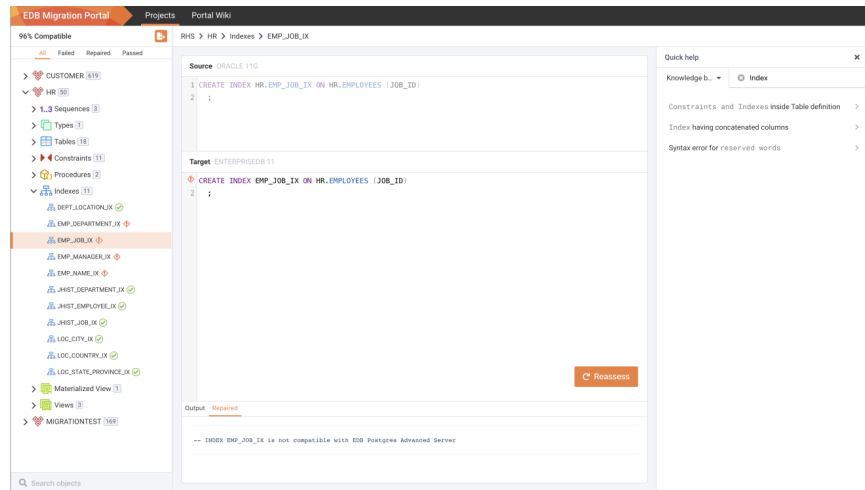


図 5 ナレッジベースエントリの検索。

3.3 移行ポータル Wiki ページの概要

ポータル Wiki ページから情報にすばやくアクセスできます。

- 移行ポータルユーザーガイド
- 移行ポータルクイックスタートガイド
- 最新情報
- ナレッジベース
- 修理ハンドラー
- よくある質問
- Postgres Rocks フォーラム

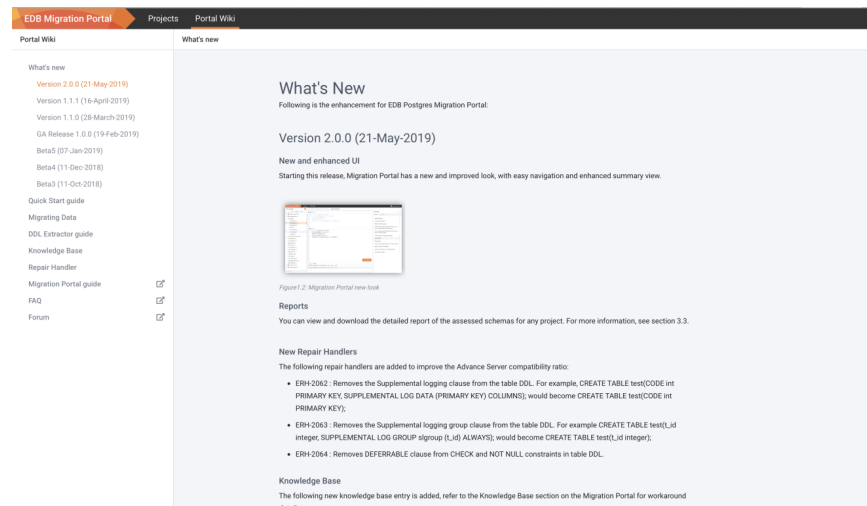


図 6 移行ポータル Wiki ページ

第 4

データベースの移行

データベースを移行するには、次の手順を完了する必要があります。

1. ‘スキーマ抽出を実行する<mp_schema_extraction> ‘。
2. ‘スキーマ評価を確認する<mp_schema_assessment> ‘。
3. ‘スキーマの移行を実行する<mp_schema_migration> ‘。
4. データベースに ‘データ移行 ‘を設定します<mp_data_migration> ‘。

以下のセクションでは、移行プロセスの各ステップに関する詳細情報を提供します。

4.1 スキーマ抽出の実行

****前提条件****スキーマを抽出する前に、移行ポータルの Projects ページまたはポータル Wiki の DDL Extractor ガイドで提供されているリンクから最新の EDB DDL Extractor スクリプトをダウンロードする必要があります。このスクリプトは、SQL Developer または SQL * Plus で実行できます。Oracle の DBMS_METADATA ビルトインパッケージを使用して、スキーマ（スクリプトの実行中に指定）の下にあるさまざまなオブジェクトの DDL を抽出します。EDB DDL エクストラクターは、ポータルにアップロードされ、EDB Postgres の互換性について分析される DDL ファイルを作成します。

注：Oracle データベースで SELECT CATALOG ROLE および SELECT ANY DICTIONARY 権限が必要です。

SQL * Plus の場合

1. SQL * Plus に接続してコマンドを実行します。

```
SQL>@edb_ddl_extractor.sql
```

2. スキーマ名と、抽出プログラムが抽出された DDL を保存するパス/ディレクトリを指定します。複数のスキーマを抽出するときは、コンマ（'、'）を区切り文字として使用します。
3. 他のスキーマから依存オブジェクトを抽出する場合は、yes または no を入力します。

たとえば、Linux の場合：

スキーマ名 [S] を入力して DDL を抽出します：

```
HR, SCOTT, FINANCE
```

Enter the PATH to store DDL file:

```
/home/oracle/extracted_ddls/
```

Extract dependent objects from other schemas?(yes/no): yes

Windows の場合：

スキーマ名 [S] を入力して DDL を抽出します：

```
HR, SCOTT, FINANCE
```

Enter the PATH to store DDL file:

```
C:\Users\Example\Desktop\
```

Extract dependent objects from other schemas?(yes/no): yes

SQL Developer の場合

1. SQL サーバーに接続し、次のコマンドを実行します。

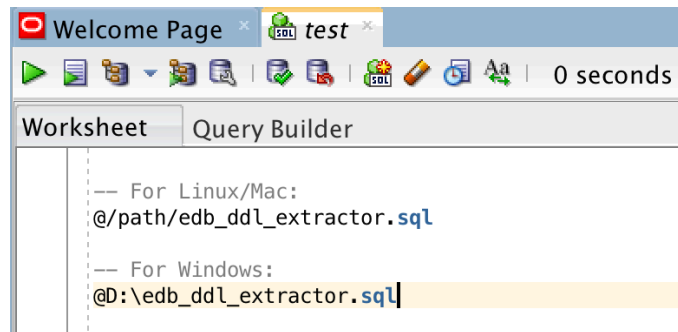


図 1 Enter the path for Linux or Windows.

- スキーマのコンマ区切りリストを入力します。

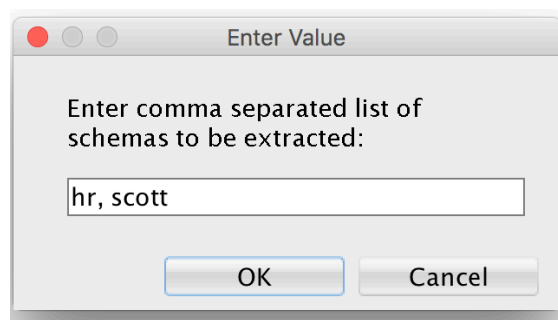


図 2 スキーマのリストを提供します

- 出力ファイルのファイルパスを入力します。

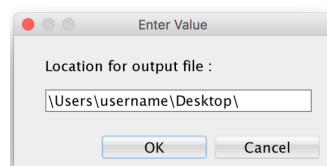


図 3 出力ファイルのパスを指定します。

- 他のスキーマから依存オブジェクトを抽出しますか？ (yes / no) : yes

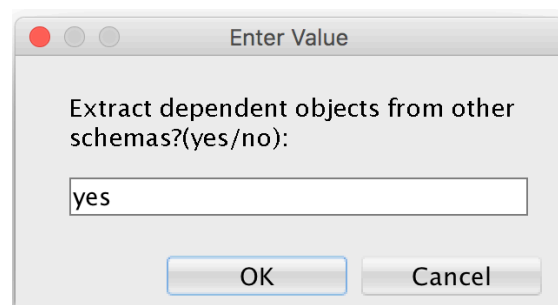


図 4 依存オブジェクトの抽出

注：SQL * Plus ツールと SQL Developer ツールの両方で単一のスキーマ名を入力することもできます。

5. スクリプトはソースデータベース内のオブジェクトタイプを反復処理し、タスクが完了すると、.SQL 出力は入力された場所（つまり、c:\Users\Example\Desktop\）に保存されます。

追加情報-EDB DDL Extractor は、次のような名前のオブジェクトを抽出しません。

```
BIN $ b54 + 4XIEYwPgUAB / AQBWwA = = $ 0
```

これらのオブジェクトを抽出するには、オブジェクトの名前を変更し、抽出プロセスを再実行する必要があります。

- DDL Extractor は、nologging テーブルを通常のテーブルとして抽出します。これらのテーブルが Advanced Server に移行されると、WAL ログファイルが作成されます。

4.1.1 サポートされているオブジェクトタイプ

移行ポータルは、次のオブジェクトタイプの移行をサポートしています。

- シノニム
- DB リンク
- タイプとタイプ本体
- シーケンス
- テーブル
- 制約
- インデックス（LOB インデックスとマテリアライズドビューのインデックスを除く）
- Views
- マテリアライズドビュー
- トリガー
- 機能
- プロシジャ
- パッケージ

4.2 スキーマ評価の実行

Advanced Server との互換性について Oracle データベーススキーマを評価するには、以下を行う必要があります。

1. SQL * Plus または SQL Developer を使用して、Oracle データベースに接続します。
SELECT_CATALOG_ROLE または SELECT ANY DICTIONARY 特権を持つデータベースロールで接続する必要があります。
2. 次のコマンドで DDL Extractor を呼び出します。

```
SQL>@edb_ddl_extractor.sql
```

EDB DDL Extractor は、SQL * Plus の ACCEPT コマンドを使用して、1 つ以上のスキーマ名を含むリストを取得します。リストにはコンマ (,) 区切り文字を使用する必要があります。最大 240 バイトを入力できます。スキーマ名の最大長は 30 文字で、7~8 個のスキーマ名を指定できます。

3. 抽出ファイルが作成されるパスを入力します。

Linux の場合：

```
Enter the schema name to extract the DDLs:
```

```
schema_name
```

```
Enter the path to store DDL file:
```

```
/home/oracle/extracted_ddls/
```

Windows の場合：

```
Enter schema name to extract the DDLs:
```

```
HR
```

```
Enter the path to store DDL file:
```

```
C:/Extracted_DDL/
```

4. 移行ポータルに移動します<<https://migration.enterprisedb.com>> ‘_’。
5. EDB 資格情報を入力します。
6. CREATE PROJECT アイコンをクリックして、新しいプロジェクトを作成します。

New project

Project name

e.g. First project

Application interface

☒ JDBC ☐ ODBC ☐ .NET ☐ OCI ☐ ProC ☐ Other

Source DB

Oracle

Version

11g

Target DB

EDB Postgres Advanced Server

Version

11

DDL file [How to get a DDL file?](#)

No file chosen

Choose file

☐ Add Index Prefix

“idx” will be prefixed for index objects as Advanced Server does not support same name for table and index object names.

Description(Optional)

Say something about the project...

Cancel Create & assess

図 5 移行ポータル新しいプロジェクトダイアログ

7. New project ダイアログで、Project name フィールドにプロジェクト名を入力します。
 8. プロジェクトの詳細を指定します。
 - Application interface の横にあるラジオボタンを選択します。
 - ソースの Source DB と Version を選択します。
 - ターゲットの Target DB と Version を選択します。
 9. Choose file をクリックして、最新の EDB DDL Extractor for Oracle Database によって生成された .SQL ファイルをアップロードします。
- 注：
- .SQL ファイルは変更しないでください。
 - 最新の EDB DDL Extractor によって生成された .SQL ファイルのみをアップロードできます。
10. Advanced Server はテーブルとインデックスの同じ名前をサポートしていないため、プロジェクトの作成時にインデックスプレフィックスの追加 (Add Index Prefix) を指定して、より良い評価結果を確保するために、idx の横のボックスをオンにします。

11. Create & assess をクリックして、新しいプロジェクトを作成し、スキーマを評価します。

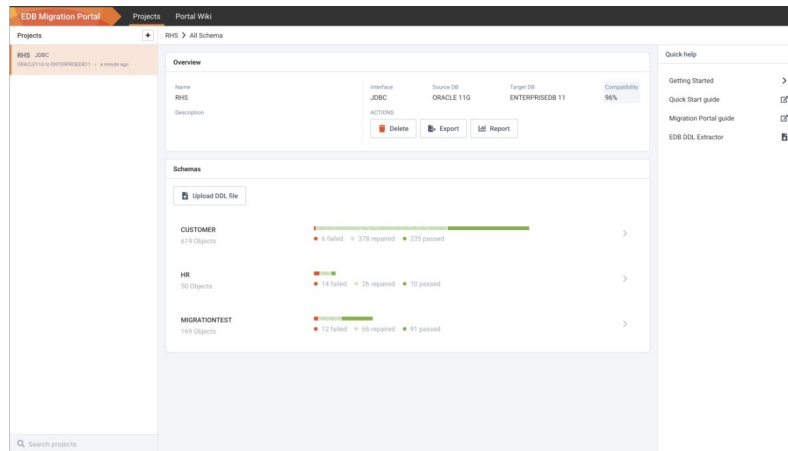


図 6 スキーマ分析結果

分析ツールは、すべての構成を確認し、修復アクションを実行して Advanced Server との互換性を改善し、手動による介入が必要な残りのエラーにフラグを立てます。

11. 100 %の成功率を示さない DDL オブジェクト (TABLES など)を確認します。

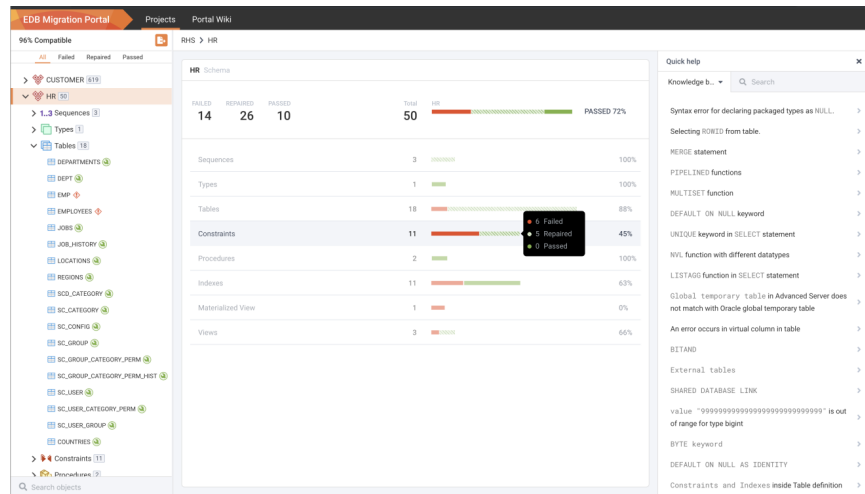


図 7 Verifying the DDL objects.

12. EDB Postgres と互換性のないオブジェクトをクリックして、詳細を表示します。

中央のパネルの下部で、修復アクションの詳細を表示できます。

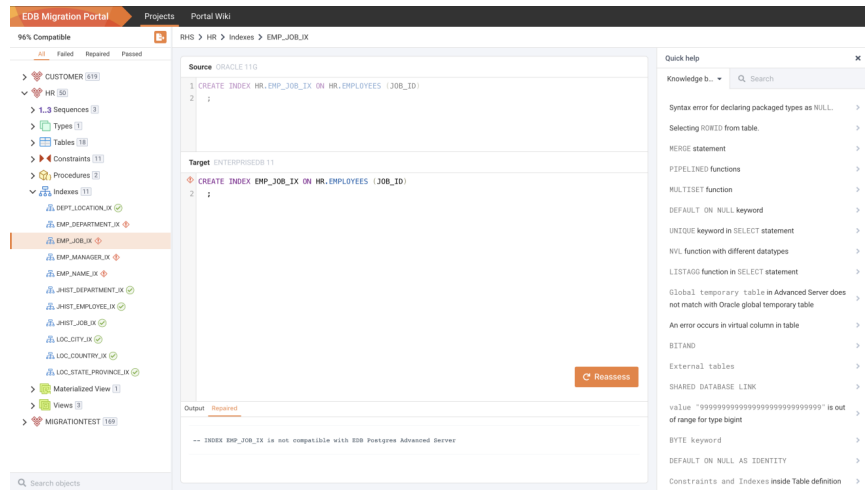


図 8 互換性のないオブジェクトが識別されます。

13. 右側のパネルのナレッジベースの情報を参照して、Advanced Server とすぐに互換性のないオブジェクトの可能な回避策を見つけてください。

注：ポータル Wiki ページでナレッジベース情報を表示することもできます。

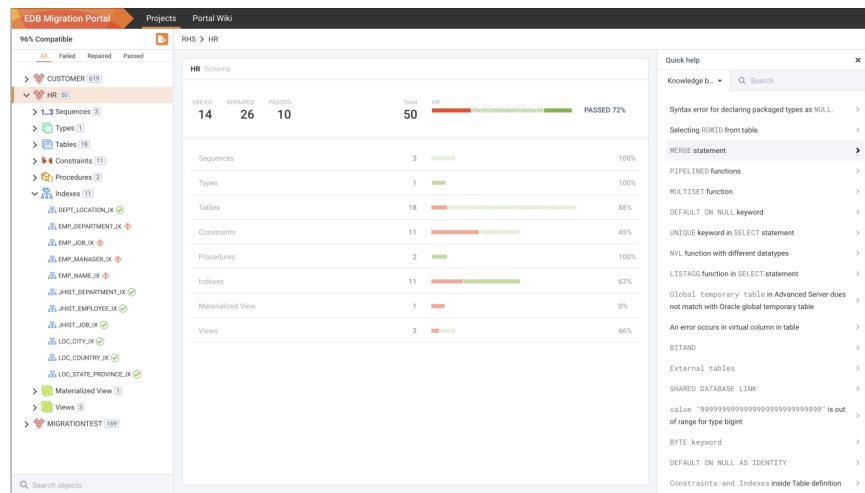


図 9 エラーを伴う評価結果

14. Knowledge Base タブで、Advanced Server と互換性のないオブジェクトのエラーメッセージを入力し、Search をクリックします。

オブジェクト詳細パネルには、失敗したオブジェクトの回避策または解決策が表示されます。そのオブジェクトの Assessment タブで手動で変更を行い、Reassess をクリックできます。

注：失敗したオブジェクトが再評価中に合格すると、そのオブジェクトの依存オブジェクトも再評価されます。

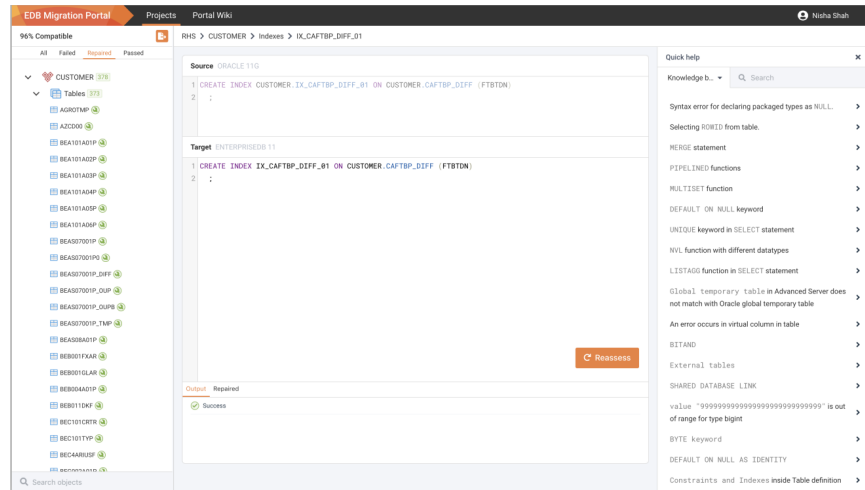


図 10 互換性のないオブジェクトの回避策または解決策

同様に、互換性のないすべてのオブジェクトを互換性のあるものにすることができます。

注：オブジェクトがナレッジベースで利用できない場合は、サポートチームに連絡してください。

DDL での作業が終了したら、変更された EDB 互換 DDL を .sql ファイルとしてダウンロードするか、スキーマ：
ref：‘を CDS クラスタに移行できます。 <migrate_to_cds> ‘。

4.2.1 評価レポートの生成

移行ポータルレポート機能は、プロジェクトに対して評価されたスキーマの高レベルの評価概要を提供します。さらに、レポートは、失敗したオブジェクトと失敗の原因に関する詳細を提供します。

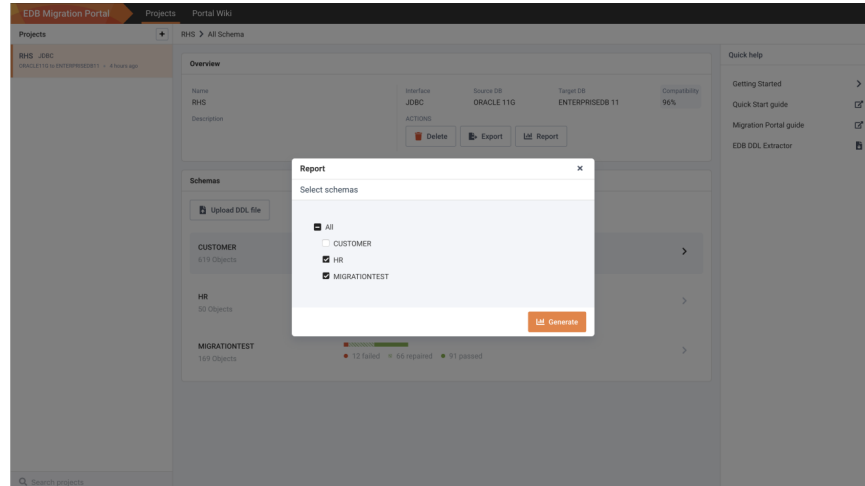


図 11 レポートのスキーマを選択します

レポートを生成するには：

1. Report ボタンをクリックして、スキーマ選択ダイアログにアクセスします。
2. レポートに含めるスキーマを選択します。
3. Generate をクリックして、画面上のレポートを生成します。

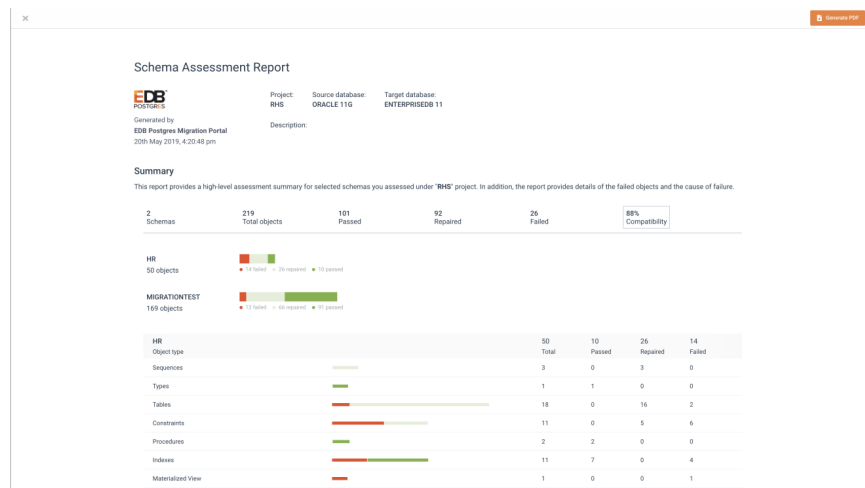


図 12 スキーマ評価レポート

オプションで Generate PDF を選択して、レポートを.pdf形式で保存できます。選択したスキーマの DDL に適

用された個別の修復ハンドラーの数を表示することもできます。

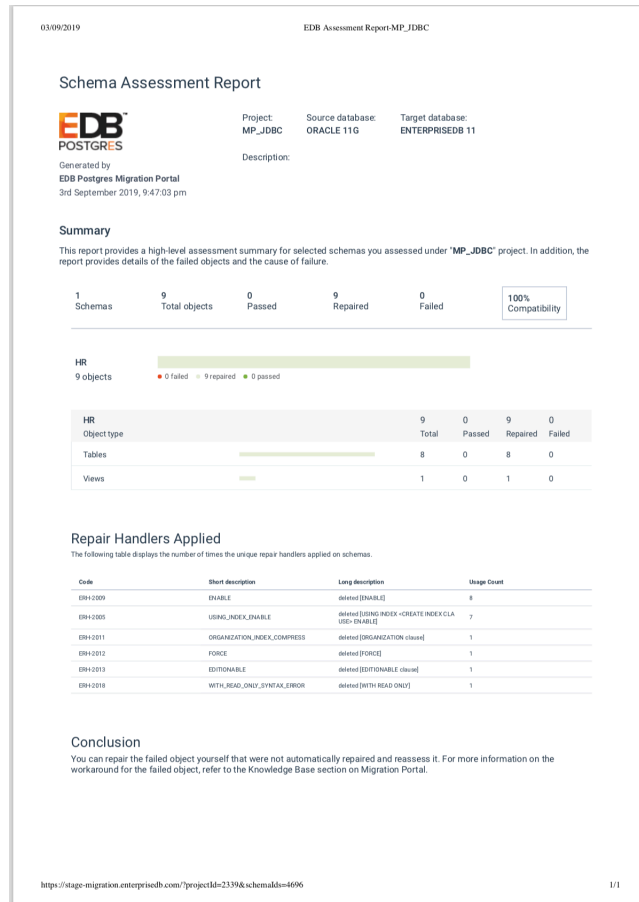


図 13 保存された pdf レポート。

4.3 スキーマの移行

スキーマのエラーを解決した後、pgAdmin、ToadEdge、PSQL クライアントなどのクライアントアプリケーションでスキーマを使用するか、スキーマを EDB Cloud Database Service (CDS) クラスターに移行できます。

注意事項：Advanced Server で Toad Edge を使用方法の詳細については、“ToadEdge®for Postgres”を参照してください<<https://www.quest.com/products/toad-edge/toad-edge-postgres.aspx>> ‘__。

PSQL または pgAdmin を使用したスキーマの展開

評価されたスキーマが Migration Portal で 100 % 互換であることを確認します。

PSQL または pgAdmin を使用してスキーマを展開するには、次の手順を実行します。

1. [プロジェクト] ページで、必要なプロジェクトを選択します。
2. 評価されたファイルをダウンロードするには、Export をクリックします。

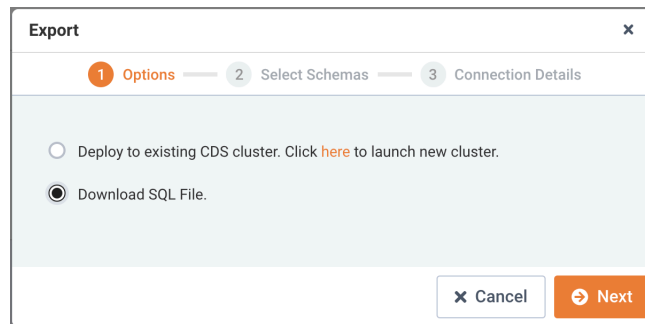


図 14 ダウンロードファイルオプションの選択

3. ダウンロードをクリックします。

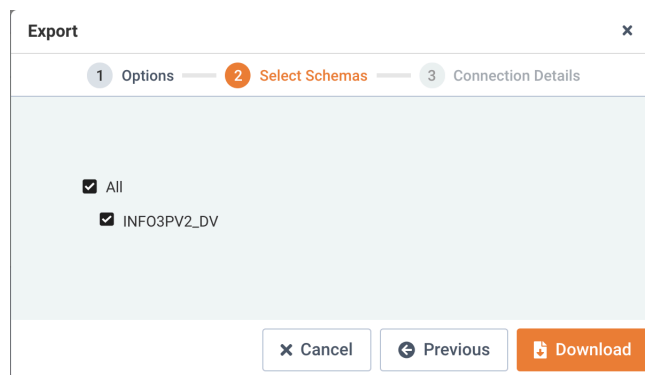


図 15 評価済みファイルのダウンロード

4. (PSQL の場合) psql / edb-psql クライアントを使用して目的の Advanced Server に接続し、次のコマンドを実行します。

```
edb=# \i /exported_ddls_folder/hr_schema/ProjHR_hr.sql
```

5. (pgAdmin の場合) 目的のデータベースに接続し、Open をクリックします。
6. スキーマをアップロードし、Run をクリックします。

Advanced Server インスタンスを Oracle モードでインストールして、主要な Oracle 機能とのネイティブ互換性を有効にする必要があります。

4.3.1 スキーマの CDS クラスターへの移行

次の手順を実行して、データベースを CDS クラスターに移行します。

1. Project page ページで、Export をクリックします。
2. “既存の CDS クラスターにデプロイします”を選択します。ここをクリックして新しいクラスターを起動します “オプション”。

新しいクラスターの作成については、“サーバークラスターの作成”を参照してください。 <https://www.enterprisedb.com/edb-docs/d/edb-postgres-cloud-database-service/user-guides/user-guide/1.1/cds_creating_server_cluster.html> “__。

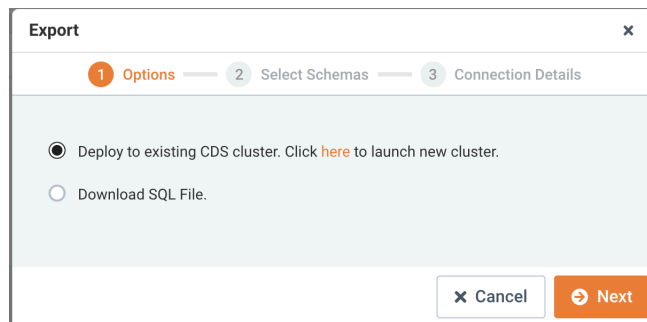
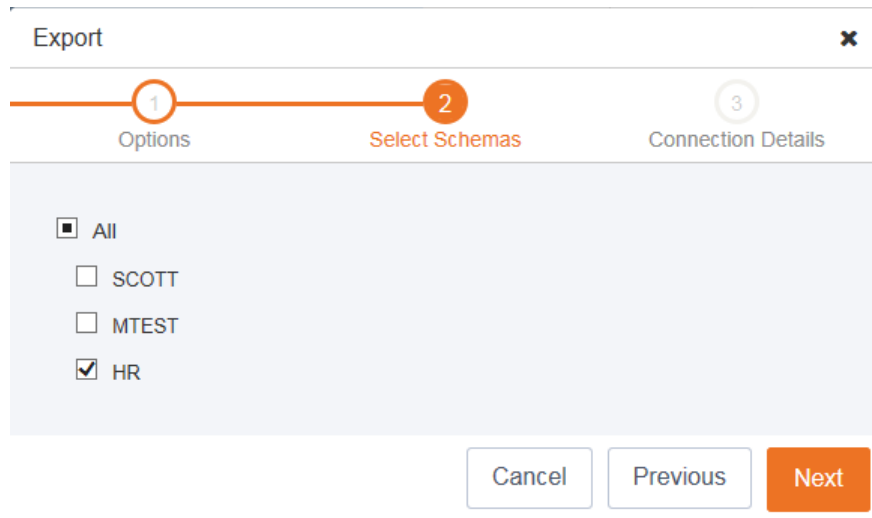


図 16 データベースを CDS クラスターに移行します。

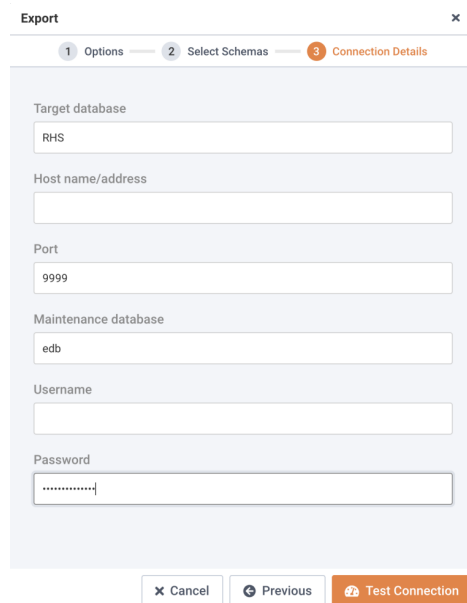
3. Next をクリックします。
4. 移行するスキーマを選択します。



The image shows a dialog box titled "Export" with a close button (X) in the top right corner. At the top, there is a progress bar with three steps: 1. Options, 2. Select Schemas (highlighted in orange), and 3. Connection Details. Below the progress bar, there is a list of schemas with checkboxes: ☒ All, ☐ SCOTT, ☐ MTEST, and ☒ HR. At the bottom right, there are three buttons: "Cancel", "Previous", and "Next" (highlighted in orange).

図 17 移行するスキーマを選択します

5. [次へ] をクリックして続行します。



The image shows the "Export" dialog box at the "Connection Details" step. The progress bar at the top shows steps 1. Options, 2. Select Schemas, and 3. Connection Details (highlighted in orange). The main area contains several input fields: "Target database" (containing "RHS"), "Host name/address" (empty), "Port" (containing "9999"), "Maintenance database" (containing "edb"), "Username" (empty), and "Password" (containing masked characters). At the bottom, there are three buttons: "Cancel", "Previous", and "Test Connection" (highlighted in orange).

図 18 接続の詳細を提供します。

6. Connection Details ダイアログに次の詳細を入力します：

- Host name/address フィールドにホスト名または IP アドレスを入力します。
- Port フィールドにポート番号を入力します。
- Maintenance database フィールドにデータベース名を入力します。
- Username フィールドにユーザー名を入力します。

- Password フィールドにユーザーに関連付けられたパスワードを入力します。

Export

1 Options 2 Select Schemas 3 Connection Details

Target database RHS Edit

Host name/address 52.5.148.59

Port 5444

Maintenance database

Username

Password

Connection successful.

Note:

- Deployment will create a new database RHS on target server, if the database does not exist.
- Ensure that all schemas have a 100% success ratio before deployment.
- Existing schemas with similar names will be dropped during deployment.

Cancel Previous Deploy

図 19 正常な接続のテスト。

7. Test Connection をクリックして、接続の詳細を確認します。

注： Edit をクリックして、接続の詳細を変更し、接続の詳細を再テストできます。

8. 接続が成功したら、Deploy をクリックします。

9. Deploy ダイアログでデブロイの詳細を表示できます。Download Summary をクリックして、展開ログをダウンロードします。

Deploy

Successfully deployed.

HOST: 123.45.7
PORT: 5444
DATABASE: Test2_EPAS11

Download Summary Done

図 20 正常な展開。

10. Done をクリックしてウィンドウを閉じます。

4.4 データ移行

スキーマの移行を実行した後、次の手順を実行してデータを移行します。

1. EDB Migration Toolkit を使用してデータを移行します。Migration Toolkit の使用に関する詳細については、“EDB Postgres Migration Guide”を参照してください。 <<https://www.enterprisedb.com/edb-docs/d/edb-postgres-migration-toolkit/user-guides/user-guide/52.0.3/toc.html>> ‘_。
2. Migration Toolkit toolkit.properties ファイルを設定し、ソースファイルとターゲットデータベースの接続情報がプロパティファイルで利用できることを確認します。

```
SRC_DB_URL = jdbc:oracle:thin:@localhost:1521:ORCL
SRC_DB_USER = user_name
SRC_DB_PASSWORD = password
TARGET_DB_URL= jdbc:edb://localhost:5444/migration
TARGET_DB_USER = enterprisedb
TARGET_DB_PASSWORD = password
```

詳細については、“toolkit.properties ファイルの構築”を参照してください<https://www.enterprisedb.com/edb-docs/d/edb-postgres-migration-toolkit/user-guides/user-guide/52.0.3/EDB_Postgres_Migration_Guide.1.14.html#> ‘_。

3. 移行ツールキットを -dataOnly モードで呼び出します。-truncLoad キーワードを含めて、テーブル間の外部キーの依存関係を解決します。

たとえば、次のコマンド：

```
runMTK.sh -dataOnly -targetSchema hr -truncLoad HR
```

このコマンドは、指定された source_schema を target_schema に移行します。データは、enterprisedb という名前のデータベーススーパーユーザーと password というパスワードを使用して、ローカルにインストールされた EDB Postgres インスタンスにロードされます。

注意：データのロードを試みる前にテーブルが切り捨てられます。

高度なデータ移行

並列データロードを必要とする大規模なデータベースでは、次のいずれかの方法を使用できます。

- EDB Postgres Advanced Server データベースリンク機能を使用します (Oracle データベースとの互換性のため)。

または

- Dblink またはデータベースリンクスタイルの移行を使用します (データに CLOB データが含まれる場合)。

詳細については、“EDB Postgres 移行ガイド”を参照してください<<https://www.enterprisedb.com/edb-docs/p/edb-postgres-migration-toolkit>> ‘__。

第 6

おわりに

EDB Postgres 移行ポータルユーザーガイド

Copyright©2007-2019 EnterpriseDB Corporation。

無断複写・転載を禁じます。

EnterpriseDB®Corporation

34 Crosby Drive, Suite 201, Bedford, MA 01730, アメリカ

T +1 781 357 3390 F +1 978 467 1307 E

info@enterprisedb.com

www.enterprisedb.com

- EDB は、存在する場合、EDB Postgres 製品のログオン UI の設計、コーディングのベストプラクティスの確立、レビュー、および入力検証の検証を行います。EDB は追加の入力コンポーネントに対して同じアプローチに従いますが、製品の性質上、限定された検証が可能な信頼できるユーザーによって入力および送信されるフリーフォーム SQL、WMI またはその他の文字列を受け入れる必要がある場合があります。このような場合、ユーザーが誤った入力や危険な入力を禁止することはできません。
- EDB は、将来、認証された信頼できるユーザーからのフリーフォーム SQL、WMI またはその他の潜在的に危険な入力を受け入れる製品に機能を追加する権利を留保しますが、そのような機能はすべて、可能な限り最小のリスクを提供するように設計およびテストされます可能であれば、スーパーユーザーまたは同等の特権が必要です。

- EDB は、すべての潜在的な脅威を予測できることを保証しません。したがって、すべての潜在的な脆弱性が対処または検討されたことをプロセスが完全に保証することはできません。

Advanced Data Migration, 29

Conclusion, 30

Data Migration, 29

DDL extractor, 18

knowledge base, 12

Migrating a Database, 12

Migration Portal™, 1

Migration Toolkit, 29

Overview of the Migration Portal Home Page, 8

Overview of the Migration Portal Projects Page, 9

Overview of the Migration Portal Wiki Page, 11

Performing a Schema Assessment, 17, 22

Performing a Schema Extraction, 13

pgAdmin, 25

psql, 25

repair handlers, 12

resources, 12

schema assessment report, 22

schema connection details, 27

Schema Migration, 24, 26

supported browsers, 6

supported databases, 6

supported object types, 16

supported operating systems, 6

Supported Versions, 5

test schema connection, 28

Toad Edge, 25

Using the EDB Migration Portal, 6

What's New, 1